

校名：愛知教育大学附属岡崎中学校

所在地：〒444-0864

愛知県岡崎市明大寺町栗林1

電話番号：0564-51-3637

記載日：平成28年5月20日

記載者：稲吉 直樹

記載者役職：教頭

貴校の校風、おおまかな特色について：

以下の文章は、本年度の入学式で生徒会長が述べた歓迎の言葉である。

満開の桜の下、附中生の一員となった160名の新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。今、みなさんは、これからの附中生活に期待で胸をふくらませていることと思います。

この附中には、他の中学校にはない、ここでしかできないものがたくさんあります。たとえば授業です。私は理科の授業でホットケーキを作ったことがあります。材料の炭酸水素ナトリウムを、どれくらいの割合で配合すればよいのか追究を重ね、自分だけのまとめを作りました。普段何気なく作っているホットケーキも、化学変化の仕組みを利用すれば、ふわふわな食感やおいしい味を生み出せることに理科の面白さを感じました。また、英語の授業では、人気アニメ、ドラえもんがアメリカに進出したことを受け、日本とアメリカのドラえもんの違いを追究しました。すると、アメリカのドラえもんの食事のシーンでは、のび太たちがスプーンとフォークを使うという、文化の違いが表れていることに気づきました。

このような授業は、附中生に新たな視点と好奇心を与えてくれ、追究する楽しさを感じさせてくれるものです。みなさんがこれから受ける附中の授業は、68年の歴史の中で築き上げられた、附中の伝統です。ぜひ、自ら追究する姿勢を大切にして、附中の授業を誇れるものにしていってください。

また、行事も附中の伝統です。例えば、体育大会があります。私は、1年生だったとき、夏休みの終わりごろから毎日学校に登校し、競技の練習や製作に一生懸命に取り組む先輩の姿に、圧倒されました。競技練習では、種目ごとの出来にそって練習の時間を割り振っていました。また、応援練習では1～3年生が一丸となって、優勝への思いを大きな声にしていました。そして、グループごとに披露されるのぼりやはりぼてなどの製作物は、附中生の努力の証であり、体育大会にかける思いを強く感じさせます。私は、こんなにも熱く、感動する体育大会は特別なものでは、と思ったのを覚えています。そして同時に、きっとこの附中スタイルも、先輩から後輩へ受け継がれてきた、附中だけの伝統だと感じました。みなさんには、授業や体育大会などの行事の場面で、附中でしかできないことを考えて、実行してほしいと思います。

ここで、あるお話を紹介します。もし、みなさんが食事をするとき、とても長いスプーンやフォークしかなかったら、どうしますか。おいしい食べ物を自分の口へ運ぼうとしても、長いスプーンが邪魔をして、食べることができません。では、自分の向かいに座っている人に、食べ物を運んであげたらどうでしょうか。きっとお互い満足に食べることができると思います。このお話から見えてくるのは、自分のことばかり考えるのではなく、お互いのことを考えて思いやることの大切さです。また、ノーベル賞を受賞した大村智さんも、「人のためにやるのが大切だ」と話しています。他人のことを考え、他人のために尽くすというのは、常に心がけておきたいと、私も感じています。みなさんは、5月に、初めての学年行事であるオリエンテーション合宿があります。ぜひ、ここで出会えた仲間を大切にして、協力し合い、絆を深めていってください。附中での仲間との生活は将来にわたって、とても貴重な宝物となります。

附中生活はあっという間に過ぎてしまいます。しかし、ここで得られるものは人生の糧となり、みなさんの将来に生きることは確かです。みなさんが、私たちと一緒に附中を担っていただけることを楽しみにし、あいさつとさせていただきます。

この生徒会長の言葉にあるように、本校は、**子どもの自主性、能動性を大切にした教育**を展開している。そのため、授業や行事等では、下記のような特色（一例）がある。

- 「生活教育」を理念として掲げ、子どもが生活から学び、生活に生かし、新しい生活をつくりあげていく教育を実践している。そのため、教科の学習では、**独自のカリキュラム**を構築し、子どもの生活から授業を構想している。
- 各学年の**宿泊行事**（1年生：オリエンテーション合宿、2年生：自然体験活動、3年生：修学旅行）では、実行委員を中心に長い時間（例：自然体験活動や修学旅行では**半年以上の準備期**

間) をかけて、準備を進めている。

○**体育大会活動**も約1ヶ月間をかけ、縦割りで3年生を中心として準備や練習に取り組んでいる。

このような取り組みによって、子どもに将来にわたって生きてはたらく力を身につけたいと考えている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

① 追跡調査をしているか、また、その方法

特に追跡調査は行っていない。ただし、旧担任を中心に連絡は取り合っている。

② 把握状況と保管先(大学、学校園、その他)

①の回答のとおり、特に集約をしてはいない。

③ 具体的な状況

さまざまな分野で活躍をしている。(例：トヨタ自動車 初代プリウス開発責任者)

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

① 追跡調査をしているか、また、その方法

毎年一度、愛知県内の附属学校にいる者が出身地区ごとに中心となって、聞き取りなどで動向調査を行っている。

② 把握状況と保管先(大学、学校園、その他)

名簿の形式にまとめ、学校園が保管している。

③ 具体的な状況

さまざまな立場で中心となって活躍している。下記はその一例である。

○教育委員会では各課における中心的な立場として、愛知県内、また、地域の教育をリードしている。

○学校現場においては、研究主任として研究推進の中心になったり、主幹教諭や教頭、更には校長として学校の管理的な立場として活躍したりしている。また、地域の教科指導員として、校内の教育研究に加え、地域内の学校の教育推進にも大きく影響を与えている。

魅力ある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

冒頭に記載したように、本校では、子どもを中心に据え、子どもの自主性、能動性を大切にした教育を展開している。その特色の一例は先述の通りである。

①「アクティブ・ラーニング」の視点から

2015年度になり、教育再生実行会議は、初等教育から高等教育まで、あらためて「アクティブ・ラーニング」(能動的学習)が必要であると提言した。本校では、この提言に先立ち、1947年の開校以来、これに応える研究を進めてきている。9教科の学習においては、子どもの問題を解決したい、目標を達成したいといった思いや願いを大切に、そのために問題解決的学習過程を基盤とした授業研究を継続して進めている。この授業形態は、教育再生実行会議が提言している「アクティブ・ラー

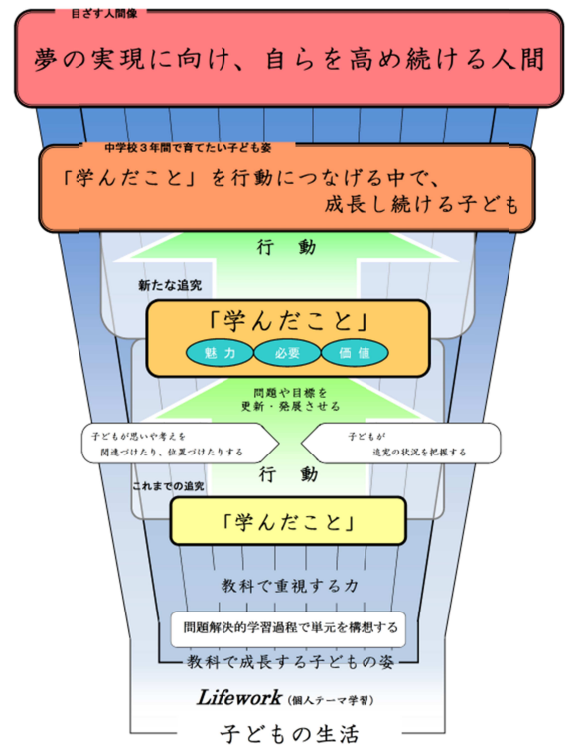
ニング」(能動的学習)の一助になるものである。

2011年度～2015年度の5年間の研究(本校では、ほぼ、4～5年のサイクルで、研究主題を変え、研究を進めている)では、研究主題を「生き方の探究」とし、子どもがよりよい社会の実現のために、自らを高め続ける人間に成長するための学校教育のあり方を研究した。

(右図はその研究構想図)

この問題解決的学習過程を基盤とした授業形態は、公立学校においても重要な取り組みである。教師による教授的な授業とは異なり、子どもの思いや願いを生かした取り組みにより、主体的な学習と価値判断、更には実行力を身につけることができる。

実際に本校の研究発表会でその理論や成果を子どもの姿で発表するに加え、本校職員が愛知県内の各地域の授業研究、研究会に講師や助言者として参加し、授業づくりから指導・助言を行うことで、その有効性を還元している。



②「生涯学習」の視点から

本校には、総合的な学習の時間が創設される以前から、この学習の内容に近い取り組みをしている。子ども一人一人が自分の興味や関心に基づき、テーマを設定する。そして、書籍やインターネットで調べたり、時には、専門家へ取材活動に出かけたりすることで、テーマに関わる知識やそこから導き出される考えを深めている。取材活動は愛知県内に留まらず、夏季休業などを利用して日本中に出かけていくこともある。この個人テーマ学習をその時の本校の研究によって、「fMAP (エフマップ)」「Lifework (ライフワーク)」と名称を変えている。(右上研究構想図参照)

修学旅行(3泊4日)では、この学習を生かし、初めの二日間(時には三日間)を利用して、関東を中心にその道の第一人者を訪問している。ここでは、単に話を聞くだけで終わらず、自分が二年間かけて追究してきたことを発信し、第一人者と意見交流を行い、更に自分の考えを深めている。

また、この学習は、単に中学校三年間で完了するものではなく、卒業後の人生にも大きな影響を与えている。例えば、児童労働や子ども兵、貧困などの国際問題について追究をしてきた生徒がいる。この卒業生は、現在、大学生であるが、その進学先を決める際には、本校で行ってきたこの学習を将来の職業につなげたいと考え、学部を選んでいる。

このように本校で行っている学習が、子どもの生涯にわたったものとなっている。

この学習の一環として行っている修学旅行での訪問活動は、地元の公立学校でも参考にされ、今では、多くの公立学校が修学旅行の際、活動の一日を班別で訪問活動などを行っている。本校の取り組みが還元されている。

また、本校には「Pネット講座」というものがある。これは、保護者(また、その関わりのある大人)が、自分の特技や専門の研究について、子どもに授業を行うものである。内容は、日常生活に関

わるテーマがあれば、ノーベル賞に繋がるようなテーマまでさまざまである。保護者には、事前アンケートをとり、「Pネットバンク」と呼ぶ人材バンクに登録していただき、年一回の「Pネット講座」において、講座をもつていただく。

この活動は、教師でなく保護者による講座ということで、日常の授業とは異なった意味で、子どもの将来の夢に対して刺激を与えたり、また、個人テーマ学習の追究を深める絶好の機会となったりしている。下記は本年度の講座テーマの一例である。

講座名

医療保険制度と介護保険制度	ヒト脳機能研究Ⅶ
愛知県産小麦品種の魅力	The difference American and British English & lesson for the speech contest
アンガーマネジメント講座	建築とデジタル技術
本場のお好み焼き作れへん？	折り紙建築
乳癌について	「粉」の不思議
アートクレイシルバー	燃料電池自動車に利用される電池の秘密
100均リメイク	検索から広がる世界 ～情報リテラシー～
紙で作るバラのアクセサリー「ロザフィ」	正調五万石踊り
私たちの暮らしと省エネルギー	外科医の仕事
ゆかた、着物の着付け	放射線を見よう

この取り組みは、地元の公立学校でも取り組み可能である。学校・保護者・地域が連携して子どもを育てることの重要性が叫ばれている今だからこそ、保護者や地域を巻き込むのには有効な取り組みだと考える。

地域における本校の存在意義について：

本校の附属学校の使命の一つに「地域の教育のための奉仕機関」がある。その観点から考えると既述をしているものも含め、下記の点が考えられる。

○公立学校において授業（教育研究）における先導的な取り組みをしている学校

- ・先述しているが、「アクティブ・ラーニング」に関わり、本校の授業が注目をされている。

○地域の教育活動の中心となっている学校

- ・本校がある愛知県内の三河地域は、子どもを大切にしたい教育がさかんな地域であり、地域で教育研究会を組織している（：三河教育研究会）。その研究会で取りまとめに加え、授業研究への取り組みに指導や助言を与え、推進している。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

これまで書いてきたように、本校の取り組みは、開校以来、大きくぶれることなく一貫している。それは、子どもを中心に据え、生活教育の理念のもと、子どもに生きてはたらく力を育むことである。その教育の姿勢が、近年、「生きる力」や「アクティブ・ラーニング」という言葉で提言されている。このように認められている子どもを育てる取り組みを、私たちは、本校だけに留まらず、愛知県内、また、全国に広めていきたいと考えている。

このような取り組みができるのは附属学校だからこそだと考える。附属学校の取り組みを更に充実させ、公立との連携を図ることができれば、より、今の日本社会が求めている教育が実現できるはずである。